

日本共産党羽村市議団と鈴木たくやさんと住民が 小金井市のごみ搬入に抗議！

4月3日

小金井市のごみ搬入に抗議する

2月23日に開催された西多摩衛生組合議員全員協議会において、西多摩衛生組合は、「多摩地域ごみ処理公域支援により、年間1万トン、10年間、焼却ごみを受け入れてほしい」という小金井市からの要請を受け入れる方針であることを表明した。

それからわずか40日足らずで、小金井市のごみが搬入される初日を迎えた。

この間に、西多摩衛生組合は公害防止協定に基づく説明会を正副管理者不在で開催したが、読売新聞や朝日新聞にも報道されたように住民からはきびしい批判が続出したし、管理者が出席のもと再度説明会を開催するよう住民が求めたが、それも拒否した。

羽村市議会では、3月19日、議員提案の「小金井市の今後のごみ処理計画に対する意見書」を全会一致で可決した。意見書では「ごみは『自区内処理』が最も重要な基本原則である。」「西多摩衛生組合の地元自治体として、10年という長期にわたる『ごみ処理広域支援』は考えられないところである。」と述べている。また、瑞穂町議会でも、西多摩衛生組合管理者と小金井市長あての意見書を賛成多数で可決したと聞いている。

小金井市のごみを処理していた二枚橋衛生組合の焼却施設は、建設から40年も経過しており、老朽化することは10年も20年も前から分かっていたはずである。ごみの焼却ができないから「多摩地域ごみ広域支援」で年間1万トンのごみを10年間受け入れてほしいという道理のない小金井市の要請を、西多摩衛生組合が、説明責任も果たさず、住民の合意も得ないまま受け入れ、今日、ごみ搬入にいたったことに、強く抗議する。

西多摩衛生組合周辺には、羽村3中や武蔵野小、羽村高校、松林小、羽村養護学校、羽村2中、瑞穂4小がある文教地域であり、住宅も密集している。西多摩衛生組合は説明会の開催や情報開示とともに、関係者や周辺住民の声に耳を傾け、誠実に対応するよう強く求める。

そして、一日も早く、小金井市のごみ受け入れをやめるよう申し入れるものである。

以上

日本共産党羽村市委員会は上記の見解を發表しました。

羽村民報

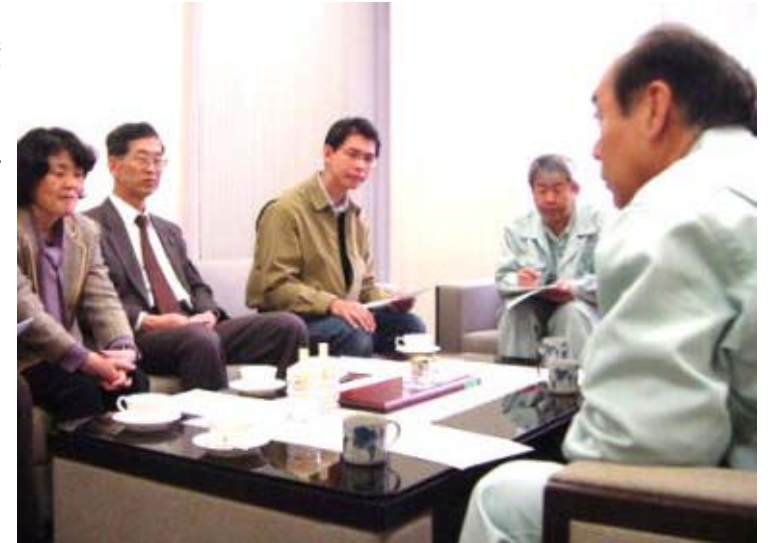
2007年4月8日 No.844
発行 羽村民報編集委員会
責任者 野崎 衷

日本共産党羽村市議団のホームページ <http://www.jcphamura.org/>



西多摩衛生組合管理者宛の抗議文を手渡す

小金井市のごみの搬入が4月3日からはじまりました。日本共産党の羽村市議団と鈴木たくやさんは当日朝、抗議文を西多摩衛生組合に届けました。(左が抗議文)



雨の中「小金井市のごみは自区内処理を」と訴える

西多摩衛生組合に小金井市のごみが搬入された4月3日は、冷たい雨の降る寒い日でしたが、鈴木たくやさんと地元住民は、午前中にごみ搬入にきた14台の収集車に「小金井市のごみは自区内処理を！」「羽村の空を汚さないで」など訴えました。



写真上・小金井市のごみ収集車。

写真左・雨の中、西多摩衛生組合近くで小金井市のごみ収集車に訴える住民。